

どんな運命も受け入れよう 1051



悲しくなるような運命に、心が弱くなってしまいます。
運命だから、しかたがないことなのですが、いつまでもクヨクヨしても、しかたありません。

**病気により、生まれつき手足が、無かった乙武洋匡（おとたけ ひろただ）さん。
彼が小学5年生の時、同級生の女の子と「漢字チャンピオン」をめぐって、ケンカをした
時の会話です。**

女の子「私はオト（乙武洋匡）になんか、何だって勝てるんだから」
乙武「いや、僕には誰にも負けないものが、ひとつある」
女の子「何、それ？ 勉強だったら、私も負けないわよ」
乙武「ううん、そんなことじゃない」
女の子「じゃあ、何？」

さて乙武さんが、「自分が誰にも負けないもの」として、挙げたことは、何だったのでしょうか？

**「ボクには、手と足がないこと！」
「手足がないから、ボクなんだ」**

彼は、手足がなくても、決して落ち込まず、普通の学校に、進学しました。
そして、勉強だけでなく、スポーツも友達と一緒に、アクティブに楽しんで、過ごした
のです。

**「クヨクヨする」などという言葉は、彼の辞書には、存在しなかったのでしょう。
やがて、大学生になった彼は、「せつかくもらった障害を、生かし切れていないのは、宝の
持ち腐れ」と考えて、障害者たちの助けとなる、地域活動に携わっていくのです。**

彼のように、どんな運命でも、ポジティブに受け入れましょう。
たとえ悲しくなるような運命でも、前向きに考えると、生きる強さに、変えることができる
のです。

**どんな運命でも、あなたにしかない運命なのです。
どんな運命も受け入れて、前を向いて、明るい生きたいものです。**



運命の女神が微笑む人 1052



**いいチャンスに出会い、チャンスを手にしたい、と願います。
では、どんな人に、運命の女神が、微笑むのでしょうか。**

芝居の舞台や歌舞伎の公演で、主役が倒れた時に、無名の新人が、抜擢された記事を読んで、あなたは、どう思いますか？

「へえ、いきなり主役の代わりなんて、よっぽどすごい新人なんだ」と思うのでしょうか？
その考えは、半分だけ当たりです。

では、もう半分の理由は、何か？

その人が代役に選ばれるのには、その人でなければ、ダメな理由が、ちゃんとあるのです。
多くの場合、その最大の条件となる共通の理由とは、いったい何でしょう？

その新人だけが、主役のセリフを、全部覚えていたから。

その新人は、いつかはこんなことがあるのでは？と、いつもいつも主役のセリフまで、覚えていたのです。

いや、主役だけでは、ありません。

異性や年齢が離れた、キャストの代役は無理でも、自分が代役をつとめられそうな出演者については、その全員のセリフを、毎回毎回、全部覚え続けていたのです。

いつ誰が、急に出演できなくなっても、「あっ、〇〇さんのセリフなら、全部覚えています！」と、手を挙げられるように、準備を怠らなかつた・・・。

気が遠くなるような努力です。

幸運の女神は、ちゃんと努力している人を、見えています。

**そして、「あの子、頑張っているみたいだから、そろそろ微笑んで、あげようかしら・・・」
なんて、思ってくれるのです。**

その新人が、大抜擢を受けたのは、偶然ではなく、必然なのです。

それだけの準備をできる人は、ちゃんと役者としての鍛錬も、怠っていないから、それなりの実力を、身につけています。

だから、「よっぽどすごい新人なんだ」という見方も、半分当たりなのです。

小柴昌俊（ノーベル物理学賞受賞者）は、「運を捕まえられるかどうかは、日頃から準備をしているかどうかだ」の名言を、残しています。

いつでも受け入れ態勢が、できていないと、運は目の前を、スッと去ってしまいます。

リンカーン（アメリカの大統領）は、「6時間で木を切り倒せ、と言われたら、私は最初の4時間は、斧を研ぐことに、使いたい」の名言を、残しています。

政治家になる前のリンカーンの仕事は、木こりでした。

どんな時も、どんなことでも、自分も常に準備をしましょう。

誠実に準備をすれば、それが自分の力となり、運命の女神が、微笑んでくれるのです。

あなたの日頃の準備への努力の継続が、あなたにチャンスを、もたらすのです。

なりたい肩書きを名乗ろう 1053



**「自分がなりたい人」に、簡単になる方法を、知っていますか。
それは、「自分の肩書き」を決めて、名乗ってしまうことです。**

例えば、あなたがオナラについて詳しくて、「オナラ評論家」になりたければ、名刺に「オナラ評論家 尻間プー太郎」と、書いてしまえばいいのです。
その瞬間から、あなたは立派な「オナラ評論家」になれます。
堂々とその名刺を、人に渡せばいいのです。

美味しい料理だけでなく、自ら料理の道具も考案してしまう、元気な平野レミさん。
さて、彼女が自ら名乗る、その肩書きが、何だったでしょう？

料理関係の専門家で、「料理研究家」「料理家」と名乗る人がいます。
平野レミさんは、どちらでもありません。

「料理愛好家」なのです。

料理を研究するのではなく、「愛好」していたのです。
いつ見ても、とっても楽しそうなわけです。
この「料理愛好家」という肩書きは、彼女の「料理を楽しんじゃおう」という姿勢が、出ていて、なかなかイイです。

**「好きこそモノの上手なれ」ということでしょう。
「愛好家」って、素晴らしい・・・。
楽しんでいる人が、1番強いということですね。**

ちなみに「しあわせ塾」の私の肩書きは、「しあわせ塾塾長（しあわせアドバイザー）」なのです。
しあわせ塾のホームページやブログなどを通して、多くの人に、しあわせのおすそ分けをしたいと願って、つけたのです。
少しずつ肩書きのように、しあわせの輪が、広がってきているので、嬉しく思っています。

**あなたも、自分だけの肩書きを、考えてみては、いかがですか。
名乗るだけで、肩書き通りの人物になれるなんて、簡単だし、ステキじゃありませんか。**

**肩書きの達成に向けて、あなたのすべての才能と努力が、開花していくのです。
そして、あなたが何をしたいかを、周りに知らせると、多くの人が、あなたを応援してくれるようになるのです。**

間違いや偶然も大事な発見 1054



**いろいろな出来事で、役に立たないことは、ありません。
「間違い」や「偶然」が、発見や発明につながった例は、数えきれません。**

付箋紙が、強力な接着剤を作ろう、としていた時の失敗作から、生まれたというのは、有名な話です。

吸い取り紙は、製紙会社の職人が、間違っ「ものすごくにじむ紙」を、作ってしまったのが、発明の「きっかけ」です。

万年筆は、品質の悪い万年筆から、契約書にインクが垂れたために、商談をキャンセルされた事に、腹を立てた人が、改良を重ねて飛躍的に品質が、向上したそうです。

消しゴムは、偶然、鉛筆で書いた文字を、生ゴムの固まりでこすったら、よく消えた事から改良されたものです。

ついでに「消しゴム付き鉛筆」は、小さくなった消しゴムが、すぐどこかに行ってしまう事に、困った貧乏画家が、発見したものです。

電子レンジは、軍事機器メーカーで、レーダー技術を改善する研究中に、偶然、技師がポケットに入れていたチョコレートが、ドロドロに溶けた事が、発明につながりました。

「清酒」は、造り酒屋をクビになった男が、腹いせにお酒をダメにしてやろうとして、酒樽に木炭を入れた事から、生まれました。

ビスケットは、一説によれば、スペインのビスケー湾に難破した、船の船員たちが、海水につかってしまった、小麦粉やバターや砂糖を、こねて焼いてみたら、美味しかったのが発祥です。

**「間違い」や「偶然」が、新たな発見や発明のチャンスを、与えてくれたのです。
そのチャンスに気づき、改良を続けたのです。**

**ポイントは、「あー、失敗しちゃった〜」で、終わらせない事です。
間違い・偶然として、無視しない事が、大切です。**

「間違い」や「偶然」にも、大事な発見があるのです。



時には積極的に逃げよう 1055



子どもの頃、ケンカして逃げるときに、「三十六計、逃げるにしかず！」と言って、その場から、逃げた人もいるかもしれません。

この「三十六計」とは、中国の兵法書、『兵法三十六計』のことです。
そして、この「逃げる」という戦術は、この兵法書の「最期の手」として、書かれています。

簡単にいえば、「もう勝てないと思ったら、ただちに逃げるがよい」ということです。
そのほうが、兵を無駄死にさせず、被害を最小限に、抑えることができます。
その時は逃げて、戦力を温存し、次の戦いで、逆転勝利すればいい」と考えるわけです。

これは、現代のビジネスなどの世界にも、通じる戦術でしょう。

勢いのある企業は、赤字店をいつまでも、引きずりません。
驚くくらいあっという間に、閉店させます。

「あの店は、ただの実験だった」というくらいの引き際のよさです。
伸びる会社も、成功する人も、パッと撤退して、次の手に打って出るので。

例えば今、理不尽な環境の中に、置かれている方が、いらっしゃるなら、逃げるという選択肢を、考えてみることは、大事なことです。
それは、人生で最終的に、勝利を得るための『積極的な逃走』なのです。

「逃げる」ことは、恥でもなんでもなく、勝利を得るための立派な作戦なのです。
はからずも「理不尽な環境」に、おちてしまったら、ヘタに解決しようとしなくて、逃げるのが一番賢いのです。

だって、何しろ「理不尽」なんですから、理屈は通用しません。
一度、逃げ出して、リセットすればいいんです。

時には積極的に、逃げましょう。
じっと時を待てば、必ず次のチャンスが、巡ってくるのです。



幸せは気づくもの 1056



**幸せを手に入れるには、どうしたらいいのでしょうか。
そのためのヒントを、紹介します。**

「幸せは、○○○もの」
この○○○の部分に、どんな3文字が、入ると思いますか？

えっ？ 「幸せは、探すもの」ですって？
素晴らしい！ あなたは、とてもアクティブな方です。

えっ？ 「幸せは、つかむもの」ですって？
力強いですね。
あなたは、起業家のように、とてもバイタリティがある方です。

アクティブだったり、バイタリティがあったりする人にとっては、幸せは「探すもの」でも「つかむもの」でも、正解だと思います。
でも、そんな元気がない人にとっては、いくら探しても、いくらつかもうと思っても、なかなか思い通りに、手に入らないのが幸せです。

でも、実はどんな人でも、1秒で幸せを、手に入れる方法があるのです。
最初の質問、「幸せは、○○○もの」の「○○○」の中に入る答え。
それは、・・・。

「幸せは、気づくもの」

**子育てを問われたとき、前皇后陛下の美智子様は、こんなふうにおっしゃいました。
「『幸せな子』を育てるのではなく、どんな境遇におかれても『幸せになれる子』を、育てたい」**

このお言葉の真意は、「どんな境遇におかれても、幸せを感じられる子」「どんな境遇におかれても、幸せを見つけられる子」なのではないかと思います。

**入って、「すぐそばにある幸せ」に、気がつかないものです。
幸せは、あなたの周りに、たくさんあるのです。**

**遠慮なく、多くの幸せに気づき、ますます幸せに、なっていきましょう。
いつもフツと幸せに、気づくことができる自分で、ありたいものです。**

どんなことにも「幸せ」とつけよう

1057



たくさんの幸せに気づいて、幸せになりましょう。
ここでは、幸せに気づくための簡単な方法を、紹介します。

ある女性が、自分のSNSに、こんなひと言を、書き込みしていました。

**おはようございます！
朝、顔を拭いたタオルが
猫の毛だらけの幸せ**

3行目の途中、「猫の毛だらけ」まで読んだ瞬間、当然、最後の部分は「～毛だらけでまいりました」とか「～毛だらけで最悪！」なんて言葉で、終わると思いました。

ところが、「猫の毛だらけの幸せ」という結び。
顔を拭いたタオルが、猫の毛だらけで、幸せって・・・。

あっ、そうか！

最後に、強引に「幸せ」ってつけると、たいがいのことは「幸せ」になってしまうんだ！
何気ない1文なのに、私は妙に、感動してしまったのです。

- ☆ 仕事が忙しいという、幸せ
- ☆ 子どもが、言うことを聞かないという、幸せ
- ☆ なかなか物事が、うまくいかないという、幸せ
- ☆ お腹が、空いてしまったという、幸せ
- ☆ 幸せを、夢見て過ごせるという、幸せ

う～む。
なんでもいけそうです。

こんなに簡単な「幸せ製造法」が、あったとは・・・。
自分が、感じたこと、思ったことの最後に、「幸せ」をつけるだけで、いいのです。

そうすれば、良いこと悪いことなど関係なく、すべて幸せに、なれるのです。
どんなことにも「幸せ」とつけ、たくさんの幸せに、気づきましょう。

お母さんが家事に感謝 1058



多くのお母さんが、毎日の家事を、頑張っています。
夫や子どもなど、家族のために、せっせと努力を、継続しているのです。

家事とは、大切なことなのですが、忙しすぎて、ついついイライラしがちになります。
そんな時は、感謝の気持ちを大切に、家事をすると、楽しくなるかもしれません。

ここで、あるお母さんが、毎日感謝していることを、紹介します。

「お母さんが感謝している10のこと」

- 1 朝早く起こされる → 愛する子どもがいるということ
- 2 家の掃除 → 住む家があるということ
- 3 洗濯 → 着る服があるということ
- 4 皿洗い → 食べるものがあるということ
- 5 食卓の下の食べこぼし → 家族で食事ができるということ
- 6 買い物 → 生活費があるということ
- 7 トイレ掃除 → 下水道が完備しているということ
- 8 家の中の騒音 → 私の人生に人がいるということ
- 9 宿題の手伝い → 子どもが学んで成長しているということ
- 10 寝床に入るときのだるさと疲れ → 私は今日も生きている！

家事の1つひとつに、その意義を感じ、心を込めて、感謝しているのです。
考え方を少し変えるだけで、イライラがなくなり、気持ちが、明るくなってきます。

大変な家事の1つひとつに、「感謝」することで、うまく「幸せ」に、変換できるのです。
どんな家事でも、感謝できるお母さんが、最高に幸せなのです。



未来を諦めない 1059



「時間がないから」「お金がないから」「もう年だから」など、できない言い訳を考えるのは、1番簡単です。

言い訳ばかりしていても、何も始まりません。

努力は何もしないで、未来を諦めているのです。

あなた自身が、輝かしい未来を追い求めれば、良い結果が得られるのです。

ある商社マンが、3か月後の海外赴任の辞令を受け、奥さんと幼い子どもたちを、海外へ連れて行くことにしました。

でも、70歳のおばあちゃんだけは、英語しか通じない、慣れない土地での生活は、ムリだろうと、日本に残ってもらうことにしたのです。

それを聞いた、おばあちゃんは、大ショック。

なぜなら可愛い孫に、会えなくなってしまうからです。

そこで、このおばあちゃん。

ある行動に出ます・・・。

70歳のおばあちゃんが、孫と別れたくない一心で、とった行動とは、何だったのでしょうか？

なんと、英会話教室に通って、3か月で、英語の日常会話を、マスターしてしまったのです。

この70歳のおばあちゃんは、「もしかしたら、2度と孫に会えなくなる」というピンチを迎えた時に、まず諦めなかった点が、素晴らしい。

そして、もっと素晴らしいのが、「自分が英語を、しゃべれるようになる」という、難易度の高い目標に挑戦し、見事に達成したのです。

おばあちゃん、ものすごい集中力です！

このおばあちゃん、「何のために学ぶのか」が明確だと、「集中力が違う」ということを、証明してくれました。

未来を諦めない努力によって、おばあちゃんは、大好きな孫と別れずに、済んだのです。

「学ぶこと」に、定年は、ないのです。

未来は、諦めなければ、変えられるのです。



相手の気持ちを察して行動しよう

1060



ある老舗旅館の女将さんは、お客と接する時、いつも元気に、挨拶をしていました。でも、ある時、1人のお客さんから「そんなに明るい声で、笑いかけられても、悲しくなる。今、とても気持ちが、沈んでいるからね」という意味のことを言われて、ハッとします。

それ以来、「お客様が今、どういう気持ちで、いらっしゃるのか」を推し測って、挨拶のトーンを、変えるようにしているのだそうです。
常にお客の気持ちに、合わせた行動を、しているのです。

帝国ホテルのあるドアマンは、常連客約1000人の顔と名前、そして乗っている車の車種や運転手まで、覚えているそうです。
だから、「〇〇様、いらっしやいませ」と言って、車のドアを、開けることができる。

帝国ホテルにある、バーのバーテンダーは、注文があると、1杯目のグラスは、お客様が最も手に取りやすい右斜め前に、置くのだそうです。
おかわりの注文が来た時に、2杯目のグラスを置く場所は、いったいどこでしょう。

お客様が、自分で移動した、1杯目のグラスの位置に、置くのです。

誰でもそうですが、バーやカフェで、飲み物を置く場合、自分がもっとも飲みやすい場所、あるいは、グラスを置いておきたい場所に、グラスを置きます。
神経質な人は、それこそミリ単位で、グラスの位置を、調整したりするものです。

バーテンダーは、お客様が1杯目のグラスを、どこに置いていたかを、さりげなく観察しておいて、2杯目のグラスは「当たり前のように」その位置に、置くのです。
それがあまりにも、自然に行われているので、多くのお客は、そんな配慮に、気づきもしない。
でも、「あのバーは、なぜか居心地がいい」ということになる、というわけです。

バーテンダーのように、相手の気持ちを察するには、お客様の今の状況を、察する観察力と好みを覚える記憶力が、必要です。
このような一流のサービスは、1朝1夕にできるものでは、ありません。

あなたなりに、ちょっとした工夫をすることで、人の心をとらえることは、できるでしょう。
相手の気持ちを察して、相手が心地よくなるように、常に行動しましょう。

恵みの雨に感謝感謝 1061



最近では温暖化の影響で、急な大雨が、降ることがあります。
大雨が降ると、洪水・土砂災害・堤防決壊・床上浸水など、多くの災害が起こります。
雨に対する不安感が高まり、雨を嫌う人が、多くなっているように感じます。
どうしようもない自然現象なので、本当は雨が、悪いわけではないと思います。
日頃から急な大雨に対する対策が、必要であり、人々の努力と工夫によって、被害が少なくなるのでは、ないでしょうか。

**なんと言っても、人々にとって、雨はなくては、ならないものなのです。
雨のおかげで、幸せに暮らしていけるのです。**

ここで、学びの一步（令和童蒙読本）の「雨の大きな恵み」を、紹介します。

ある日、雨が降った。
子どもは、「どうしてこんなに、雨が降るんだろう。これでは外で遊ぶことが、できない。」と嘆いた。
父が、「お前は どうして、嘆いているんだい。お腹でも空いたのかい。」と尋ねた。
子どもは、「そうではありません。父上の言うとおり、食べられなければ、嘆くこともありますが、毎日飽きるほど、食べています。嘆いたりしません。」と答えると、父は、「それなら、庭にきれいな花が咲くのを 見て、嘆いているのか。」と尋ねた。
子どもは、「父上も ご存じですが、私はとても花が、好きです。そんなことで、嘆いたり はしません。」と笑って言った。
父が、「もし一滴の水もなかったら、花は咲くと思うかい。」と尋ねると、子どもは、「もし太陽に照らされて、乾いてしまったら、一つの花も咲くことは、できないでしょう。」と答えた。
父は、「毎日食べているご飯は、何から作られていると思うか。」と尋ねると、子どもは、「それは 稲からです。」と答えた。
父は、「稲は水を与えなくても、成長するだろうか。」と尋ねると、子どもは「水を与えなければ、成長することはできません。」と答えた。

この時父が、雨を指差して、「稲を成長させるのも雨で、花を咲かせるのも雨だ。全てのものに、潤いを与えるのもまた雨だ。つまり雨というものは、私たちに大きな恵みを、与えてくれるものだ。お前が どうして、嘆くことがあろうか。」と言った。

子どもは、「今、父上の教えを受け、初めて雨の大きな恵みが、分かりました。」と大いに納得した。

**子どもは、雨の素晴らしさに、気づいていなかったのです。
父の教えで、雨が自然や人々に、大きな恵みを与えていることが、分かったのです。
人は、雨が降った水を飲み、生きていくことが、できるのです。
雨の恵みに、感謝感謝で、いっぱいなのです。**

まだまだ未熟 1062



人は、何事にも慣れてくると、ついつい自分是可以、と過信してしまう傾向にあります。少しやっただけなのに、謙虚さを感じなくなり、傲慢になってしまうのです。

そうなれば人は、日ごとの真摯な努力を、継続できなくなります。人としての成長が、ストップしてしまうのです。

あるカメラマンが、新潟で50年間も、お米を作り続けている、農家のところへ、取材に行った時のことです。
写真を撮り終えて、最後に、何気なく「今年のお米の出来は、どうですか？」と聞いたのだそうです。

それに対する農家の返事が、実にカッコいいのです。
きっとこの人は、感じるままに、答えたのだと思いますが、人生の教訓になるような、一言だったのです。

「いや、わかりません」
「僕は、まだ米を、50回しか、つくったことがない、ですから」

この言葉は、まさに「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」です。
天狗にならないにも、ほどがあります。

1年に1回しか、作ることが、できないお米。
そのお米を、毎年毎年、まるで「初めてお米を、作った年のように」ひたむきに、真面目に、丹精込めて、作っている姿勢が、伝わってきます。

10年やそこらの経験で、仕事の全部が、わかったような顔を、してはいけませんね。
どんな仕事も、奥は深い、いくらでも追求できます。

「こんな仕事、クリエイティブじゃなく、つまらない」「俺は、こんなところで、くすぶっている、器じゃない」などと、偉そうに言う前に、今、取り組んでいる仕事の深掘りを、しましょう。
意外な奥の深さに気づき、今まで、楽しくもなんともなかった仕事が、がぜん面白く、なるかもしれません。

「まだまだ未熟」と、現状の自分に、満足しない謙虚さが、仕事をさらに、追求する姿勢につながります。
それが成長として、わが身に、跳ね返ってくるのです。

落ち込んでいる人に優しさを 1063



何か失敗やトラブルがあり、心が落ち込んでいる人がいたら、あなたは どうしますか。落ち込んでいる人に、優しく接することが大切だ、と思っている人が、多いと思います。しかし、実際に落ち込んでいる人に、出会った時に、本当に優しく、できるでしょうか。

天才ギャグ漫画家、赤塚不二夫のエピソードです。

『天才バカボン』を、描き上げた赤塚不二夫、締め切り前に編集者に、原稿を渡します。しかし、その後大事件が・・・。
「原稿をタクシーに、置き忘れて、なくしてしまいました！」と、編集者が蒼白で、戻ってきたのです。
タクシーとは、連絡がつきません。
しかし、翌日には原稿を印刷所に、渡す必要があります。
まさに大ピンチ！

しかし、赤塚不二夫は、まったく怒ることなく、「ネーム（脚本のようなもの）があるから、また描ける」と言い、さらに・・・。

「まだ少し時間がある。飲みに行こう」

こう言ったのです。
これはもちろん、落ち込んでいる編集者を、気遣っての言葉です。
飲んで戻った赤塚は、また数時間かけて、同じ話を描き上げて、「2度目だから、もっとうまく描けたよ」と言って、その原稿を編集者へ、渡したそうです。

紛失した原稿は、1週間後にタクシー会社から、赤塚不二夫宛てに、郵送されてきました。「2度と同じ失敗を、繰り返さないように、お前が持ってる」と、赤塚不二夫からその原稿を、プレゼントされた編集者は、その後35年間も、自分への戒めとして、持ち続けたそうです。

そして、赤塚不二夫が、亡くなった時、「この原稿の役目を終わった」と、娘さんに原稿を戻したのです。
だから、現在「天才バカボン」の同じ回の原稿が、2つ存在するのだそうです。
ファンからも出版関係者からも愛された、彼の葬儀の参列者は、1200人に及びました。
本当の優しさを、持った赤塚不二夫が、いかに慕われていたかが、わかります。

**完璧な仕事や勝ち負けに、こだわっていると、誰かが失敗して、落ち込んでいる時に、ついそれを、責めてしまうものです。
でも人間、完璧な人なんて、いないですから、誰でもミスを犯します。**

**本当の優しい人とは、誰かが失敗した時やトラブルが起きた際にも、周囲を気遣うことが、できる人なのです。
落ち込んでいる人にこそ、人の優しさが、必要なのです。**

お米には命が宿る 1064



毎日の食生活に、なくてはならない物は、何でしょう。

それは、毎日食べる活力の源である、お米です。

農家の人々が、丹精込めて育てた、お米を食べることで、人は健康な身体を、保っています。

お米に対しては、感謝の気持ちで、いっぱいなのです。

ここで、熊本日々新聞掲載、20代女性の「作り手が命を吹き込むお米」を、紹介します。

「米粒残しちゃだめよ」。

子どもの頃、そう言われて、育った大人が、どれくらいいるだろう。

しつけのためか、もったいないからか、親たちがどのような理由で、言っているのか不明だが、なぜか私は、茶碗に残った米粒を見ると、強烈な罪悪感と恐怖心のようなものが、ズキンと胸を刺してくる。

逆にきれいに炊き上がったお米は、きらきらと輝いて見え、ふわっと温かい風が、胸を吹き抜ける。

「お米には、目に見えない力がある」。

私は本気で、そう思っている。

先日母の実家の米作りを、手伝った。

無農薬のため、合鴨農法で、育てている。

鴨を狙う野生動物への対策も欠かせなく、30度近い猛暑の中、家族総出で1日中、網張りをした。

米作りには88の手間が、かかると言われるが、私はこの1日でも、クタクタになり、米作りの大変さを、痛感した。

その夜、祖母が、お米を研ぎながら、つぶやいた。

「お米には、1粒1粒命があって、稲は毎日一緒に生きてきた、兄弟だけん、1粒でも残したら、かわいそうやろ」

お米1粒1粒を命と考え、自分の子どものように、愛情を注いで、作っているのだ。

なるほど、こうやって作り手によって、お米に命が、吹き込まれていくのか。

だからお米には、心に訴えかけてくるような、不思議な力が、あるのかもしれない。

米粒を残さず、食べることは、愛情いっぱい育てられた、1粒1粒の命を、大切にすること。

どんなに時代が、変化しても、お米にこの力がある限り、いつまでも「米粒を残しちゃいけない」と、伝え続けられるだろう。

お米には、農家の人々の愛情と命が、宿っているのです。

お米に感謝の気持ちを、持ち続け、大切にしていきたいものです。

助け合いの精神で上手くい 1065



人は、自分1人の力だけで、生きているのでは、ありません。
人は、多くの人から、助けられながら、生きているのです。

**個々人だけの力では、どうにもできないことが、多くあります。
そんな時は、助け合いの精神が、大きな力を、発揮するのです。**

マグロ船の仕事は、非常にハードです。
遠洋の漁場に着いたら、1日17時間の肉体労働が、20日間続くことも・・・。
1人でも多く人手が、欲しいところですが、船長はこの漁に、参加しません。
「偉いから」では、ありません。

実は、もっと重要な任務が、あるのです。
マグロ船の船長が、ほぼ1日中たずさわっている、ある大切な役割とは、どんな仕事でしょう？

船長は、無線で、他のマグロ船に連絡して、マグロの群れがいる場所の情報交換を、おこなっているのです。

あなたは今、「えっ、他のマグロ船が、マグロの群れの場所を、教えてくれるの？」って、思いましたね。
意外にも、これが教えてくれるのだそうです。

**実は、マグロ船同士は、こうした漁場の情報を、惜しげもなく、頻繁に交換し合うのです。
海に出たら「持ちつ持たれつ」で、助け合うのが、当たり前なのです。**

日本の1部の集落には、「結（ゆい）」と呼ばれる、共同作業があります。
有名なのは、合掌造りの茅葺き屋根の集落で知られる、岐阜県白川郷の結が、あります。

茅葺き屋根のふき替えには、莫大な費用と労働力が、必要ですが、これらを集落の助け合いである、結により無報酬で行うことで、村人個人の手間と費用が、軽減されてきたそうです。

人は、どんなに強い人でも、頭のいい人でも、1人では、生きていけません。
ましてやマグロ船のように、大海原など自然に挑む時、人は無力です。

**だから助け合いが、必要なのです。
あなたも、困った時には、大いに人に、頼って下さい。**

**「うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる」のです。
助け合いの精神で、なんでも、上手くいなのです。**

未来に希望を持とう 1066



未来の希望は、生きる勇気と力強いエネルギーを、人に与えてくれます。
辛く苦しい日があっても、常に前向きに、未来の希望を持ち続けて、生きましょう。

国民的ベストセラー『窓ぎわのトットちゃん』。
トットちゃんこと、黒柳徹子さんが、子どもの頃に通っていた、トモ工学園での体験を綴った小説です。

終戦の直前まで、現在の自由が丘にあった、トモ工学園は、教育者の小林宗作が、校長となり、自由奔放な教育を、展開した学校でした。

小林校長が、すべてを捧げて創り上げた、理想の学校のトモ工学園は、この物語の最後に、B29からの焼夷弾で、焼けてしまいます。
燃え上がる校舎を、じっと見ていた小林校長は、そばに立っている大学生に、声をかけます。

炎に包まれる学校を見ながら、小林校長が、息子に言った言葉は、何だったでしょう？

「おい、今度は、どんな学校、作ろうか？」

**「本当に前向きな人は」文字通り、前（＝未来）しか見ていません。
だから何を失っても、ゆるがないのです。
どんなピンチでも、それを「新たなチャンス」と、考えることが、できるのです。**

燃え落ちる、校舎を前にして、新たなスタートに、胸をワクワクさせていた、小林校長です。
その心境に達するのは、容易ではありませんが、ぜひ見習いたいものです。

明るい未来の希望が、あなたを、明るい未来の世界に、導いてくれるのです。



誰にでも才能がある 1067



走るのが、速い人がいます。
その人と比べて、自分は才能がない、という人がいます。

数学が、得意な人がいます。
その人と比べて、自分は才能がない、という人がいます。

その道で優秀な人と比べて、才能がないのは、しかたのないことです。
比べることが、意味がないようにも思います。
しかし、才能がないという人は、本当に才能が、ないのでしょ

フランスの哲学者・政治思想家のモンテスキューは、次の名言を残しています。

才能とは、神から与えられ、それとは知らずに、私たちが持っているものだ。

この名言は、「すべての人は、自分では知らなくても、神から与えられた、才能を持っている」と教えています。

江戸時代の思想家、伊藤仁斎（じんさい）は、「人はそれぞれ、その人ならではの才能を持っている。たとえば私には、諸葛孔明（しよかつこうめい 中国の天才的な軍師）の才能はない。しかし、私には、諸葛孔明が持っていない、才能を持っている」と述べています。

つまり、相手の才能には、かなわないと思った時は、自分が持っている、別の才能で勝負をすればいい、ということ

誰でも他の人が、持っていない才能を、持っているのです。

- ☆行動力がある
- ☆人と話すのが、好きだ
- ☆駅の名前を、覚えるのが楽しい
- ☆美味しい料理を、作るのが得意だ
- ☆面白い文章を、書くのは好きだ

人は、このようないろいろな才能を、持っているのです。
ライバルの才能が、優れているからと、落ち込む必要はありません。

**あなたには、神から与えられた、素晴らしい才能があるのです。
自分の素晴らしい才能に、自信を持って、生きましょう。**

幸せはいっぱいあふれている 1068



**毎日幸せを、感じている人がいます。
そんな人は、やる気とプラスのエネルギーがいっぱいで、毎日が充実しています。**

どんなことを幸せと感じるか、人それぞれ違いがある、と思います。
日常生活の中には、たくさんの幸せが、あるのです。

ここで、熊本日々新聞掲載、女子中学生の「私が幸せだと感じる瞬間」を、紹介します。

私が幸せを感じる瞬間は、2つあります。

1つめは、「天草の景色を眺めるとき」です。

特に夕日を眺めているときは、時間を忘れて、落ち着くことができます。
学校も再開し、受験勉強で慌ただしい日々の中、ふと夕日を見ると、その一瞬はきついことも忘れて、幸せな気分になれます。

幸せを感じる瞬間の2つめは、「おいしい物を食べるとき」です。

私は、母の作るオムライスが、大好きです。
偶然にも中学1年生の妹も、好きな食べ物は、オムライスと学級で紹介していたようで、毎日の晩ご飯のメニューの中から、好きな物がかぶったことに、笑ってしまいました。

私は、このような日常生活で得られる、幸せな瞬間のおかげで、毎日頑張ることができています。

「幸せ」というものは、私たちの生活に、あふれていることに、改めて気づくことができました。

今、新型コロナウイルスで大変だからこそ、小さな幸せを見つけて、1日1日を頑張っていけば、きっとこの状況を、乗り越えることが、できると思います。

幸せを感じる瞬間があることは、素晴らしく幸せなことです。

幸せは、気づこうとすれば、たくさんの幸せに、気づくことができるのです。

幸せは、いっぱいあふれていることに、感謝をして、幸せの瞬間を、心地よく過ごしましょう。



済んだことを気にしない 1069



過去の嫌だったことを忘れずに、いつまでも気にしている人がいます。そんな人は、毎日気持ちが晴れずに、忘れるまでに時間がかかります。それとは逆に、すぐに忘れてしまい、クヨクヨしない人がいます。そんな人は、気持ちの切り替えが上手く、毎日気持ちが晴々として、過ごすことができます。

松下幸之助（旧社名松下電器産業を、一代で築き上げた経営者）のエピソードを、紹介します。

ある日のこと、船を下りて波止場を歩いていた、幸之助さん。
いきなりやってきた大男に、身体をぶつけられて、海に落ちてしまいます。
急いでいるのか、気が付かないのか、そのまま行ってしまう大男。
ずぶ濡れになって、海からあがった幸之助さん。
別に怒る様子もなく、「ああ、夏でよかった」なんて、のんきな事を言っている。
怒りがおさまらないのは、一緒にいた秘書です。
「社長、大丈夫ですか。さっきの男、私が追いかけて、文句を言ってきます」と、息巻きます。

この秘書に対して、幸之助さんは、キッパリとこう言ったのです。
「馬鹿者！ 今から文句を言ったからといって、私は海に落ちないで済むのか。海に落ちないで済むなら、いくらでも文句を言いに行く。だが、そんな事はある得ない。今さら文句を言ったところで、私が海に落ちたという事実は、何もかわらないじゃないか！ 先を急ぐぞ」

そう言うと、濡れたスーツを手で払い、さっさと歩き出したそうです。
**すでに起こってしまった事は、とやかく文句を言っても、変えることはできません。
ならば、気にせず、次に向かった方が良い。
実に潔（いさぎよ）い考え方です。
ここで、松下幸之助さんの名言（道）を、紹介します。**

自分には
自分に与えられた道がある
広い時もある
せまい時もある
のぼりもあれば くだりもある
思案にあまる時もある

しかし 心を定め
希望をもって歩むならば
必ず道はひらけてくる
深い喜びも
そこから生まれてくる

**常に希望を持って、自分の道を、開いていきましょう。
後ろを気にせず、前を向いて、進むだけです。**

人の過失を笑って許そう 1070



人の過失を、いつまでも許すことが、できない人がいます。
この場合は、過失をした人、許すことができない人、2人とも不幸が続きます。

反対に、人の過失を、気軽に許すことが、できる人がいます。
この場合は、過失をした人、許すことができる人、2人とも幸せが続きます。

かつての会津（あいづ）の殿様、加藤嘉明（よしあきら）のエピソードです。

若き日の嘉明公は、「手塩皿（てしおざら）」という、10枚1組のお皿を家宝にし、大切な客をもてなす時に使うなど、それはそれは、大切にしていました。

ところがある日。

このお皿のうちの1枚を、側近の若者が、不注意から割ってしまったのです。

こういうものは、全部そろっていてこそ、価値があるもの。

この家臣は、「これは打ち首に、なってもおかしくない」と、覚悟を決めます。

10枚1組のお皿のうち、1枚を家臣が、割ってしまったと知った嘉明公は、意外な行動に出たのです。

あなたには、嘉明公が、何をしたかわかりますか？

なんと、嘉明公。

残った9枚の皿も、その家臣の目の前で、全部割ってしまったのです。

別に、ヤケを起こしたわけでも、気がフレたわけでもありません。

残りのお皿まで割った理由は、次のようなものでした。

「残りの皿を、そのままにしていたら、この皿が使われるたびに、おまえはその内の1枚を自分が、割ってしまった事を思い出すし、周りもおまえを白い目で、見てしまうだろう。ならば、いっそ、すべて無くしておいた方が良い」

そう言って、笑って許した、というのです。

名君ですね。

人の上に立つ人は、これくらいの器の大きさが、あって欲しいものです。

自分より弱い立場の人間の過失を、笑って許せる、度量があるのです。

自分にとって、本当に大切なモノは、「家宝」ではないと、心得ているのです。

こんな殿様のためなら、家臣は喜んで、命だって差し出します。

どんなに注意をしていても、過失が起こってしまいます。

そんな時は、笑って、許すようにしましょう。

許すことは、お互い幸せになることでも、あるのです。

「まず自分が」親切にしよう 1071



人間関係で、上手くいかない人がいます。
そんな人の多くは、日頃から他の人に、親切にしていない傾向にあります。
日頃から他の人に、親切にしている人は、他の人も親切を、返してくれるのです。
人間関係が、いつも良好なのです。

ある人が、パソコンの買い換えを、考えていました。
「最近のパソコンは、どんな機能があり、どんなものが売れているのか、今日はほんの下見のつもり」という気持ちで、家電量販店を訪ねました。
すると、販売員はとても親切に、対応してくれました。
時間をたっぷりとって、機能を説明してくれ、売れ筋商品や、業界の裏情報的なことも教えてくれ、質問にもていねいに、答えてくれました。

ある人は、こんな気持ちになりました。
「この店員は、わざわざ時間を割いて、親切に説明をしてくれた。おかげでパソコンの最新情報がわかった。また、このお店に出向いて、この人から買おう」

ある人が、膝の痛みで、悩んでいました。
「詳しく膝の痛みの原因を、教えてもらい、少しでも膝の痛みが、なくなるようにしたい」という気持ちで、遠く離れた整形外科病院を、訪ねました。

すると、医師はとても親切に、対応してくれました。
時間を十分取って、レントゲン等を見せながら、膝の痛みの原因を、詳しく説明してくれ、患者の質問にも、ていねいに答えてくれました。
今後の治療の進め方について、痛みが取れるような見通しの治療方法を、示してくれました。

ある人は、こんな気持ちになりました。
「この医師は、十分時間を取って、わかるように親切に、説明してくれた。遠く離れた病院だけど、医師の先生を信頼して、ぜひ治療を続けていきたい」

**このように、相手から何かをしてもらったり、何かを与えられると、こちらもお返しが、したくなるのが、人間の心理です。
この心理のことを、「好意の返報性の法則」と、呼んでいます。**

人間関係において、相手に応援・協力してもらいたかったら、まず自分が応援・協力してあげることです。
相手に親切にしてもらいたかったら、まず自分が、親切にしてあげることです。

**そうすれば、相手の自分に対する態度が、望ましい方向に、劇的に変わっていくのを、痛感するでしょう。
たとえ自分が、相手に何かをしてもらおう立場であっても、「まず自分が」親切にすると、人間関係が格段に、楽しくなるでしょう。**

他人に必要以上に期待しない 1072



「あの人なら、お願いしたことを、必ずしてくれる」「彼女なら、自分の気持ちが、わかってくれる」「あの上司なら、私に優しい言葉を、かけてくれる」「自分の子どもなら、きっといい高校に、合格できる」など、人は、他人に強く期待します。

その期待が、上手くいけばいいのですが、期待通りでなかったり、期待を裏切られる場合も、多くあります。

そんな時は、怒りが込み上げたり、不満が残ったりします。

期待された人にとっては、困った期待なのです。

期待した人にとって、一方的で都合のいい期待、強い期待、レベルが高い期待だったのかかもしれません。

あるテレビ局が、20代の若いカップル100組を対象に、どういうときに恋人に対して、不満になるかを、尋ねたことがありました。

すると、次のような答えが、返ってきました。

- 会いたいののに、忙しいと言って、合ってくれないとき
- 誕生日を、大切にしてくれないとき
- ファッションを、ほめてくれないとき

今度は30代の夫婦100組を対象に、同じ質問をしました。

すると、次のような答えが、返ってきました。

- ◎夫が子どもの面倒を、見てくれないとき
- ◎夫が休日、どこにも連れて行って、くれないとき
- ◎妻が自分の食べたい料理を、作ってくれないとき

これらの返答には、世代を超えた共通点があります。

それは为什么呢。

相手に対して、自分の期待通りに、動いてもらおうと、考えていることです。

言い換えると、相手を自分の思い通りに、コントロールしようとしていて、それがままならないから、不満になってしまうのです。

一般の人間関係も、例外ではありません。

人間関係で、不快な思いをしたくなければ、相手に過度の期待を、寄せないことです。依存しないことです。

そうすれば、不満になることもないし、フラストレーションだって、たまりません。

そして、期待通りに動いてくれたときだけ、「ありがたい」と、考えるようにすれば、いつまでも良好な関係で、いられるのです。

「ここだけの話」に気をつけよう

1073



ヒソヒソ話が、好きな人がいます。
いろいろな秘密のことに、興味がある人は、多いでしょう。

しかし、誰かがヒソヒソ話を、している姿を見ると、あまりいい気持ちはしません。
ヒソヒソ話の中には、人の悪口、知られたくない個人情報や秘密などが、多いのです。

**あるとき、会社の職員採用見習い期間に、優秀な人がいました。
ところが、1か月もたたないうちに、会社はその人を、不採用としました。**

理由は、次のようなことでした。

「あの人は、確かに優秀だったが、信用できなかった。彼は、いろんな人と雑談すると、決まって『ここだけの話ですが』と前置きして、他人の秘密を口外した。本来他の人が知ってはならないことまでもね。ということは、会社の社長や職員だって、陰でどう言われているかわからない。だから不採用としたのだ」
この話は、私たちにも大いに、参考になると思います。

たとえ悪口でなくても、「ここだけの話ですが」という言葉を多用すると、聞かされた相手は「この人は、口が軽いなあ」と、警戒心を、強めるようになります。

信頼を得るために、「あなただけに、秘密を明かします」と、いう意味で「ここだけの話ですが」と、言う場合もあるでしょうが、逆効果になる場合が、多いのです。

**ですから、「ここだけの話ですが」は、できるだけ言わないようにしましょう。
あわせて他人の秘密は、絶対に口外しないことです。**

**そうしてこそ、初めて相手は、安心感を抱くようになり、その安心感が、双方の信頼関係を、より強固なものにしてくれるのです。
「ここだけの話」に、十分気をつけましょう。**



人に喜んでもらおう 1074



商売をしている人で、なかなか商品が売れない、会社が儲からないと、困っている人もいます。

そこで、どうしたら商売繁盛するのか、そのヒントになる昔話を、紹介します。

**昔むかし、ある村に「湊屋（みなとや）」という、商屋があったそうなの。
何代も続いてきた、老舗じゃったが、どうも最近、儲からん。**

そこで老夫婦は、あるアイデアを、思いついた。

米や味噌などを、買ったり売ったりする時に使う、軽量枴（ます）。

この軽量枴に、ほんの少し大きいものと小さいものを作り、大きい枴を「買い枴」として、仕入れる時に、小さい枴を「売り枴」として、売る時に使う事にしたんじゃ。

つまり、量をごまかして、仕入れ先から同じ金額で、大目に仕入れ、お客には同じ金額で、少なく売ろうと、考えたのじゃな。

少しずつじゃが得をして、シメシメと思っておったのもつかの間。

「どうも、湊屋さんは、勘定よりも多く品物を取られる。取引を控えた方がええ」

「なんだか、湊屋さんの商品は、最近盛りが少ない」

と、悪いウワサがすぐに広がり、店は余計に傾いてしもうた。

さて、この店には、1人のグータラ息子がおったが、ある日、この息子に嫁がやってきた。実はこの嫁っこ、「湊屋ほどの商屋が、つぶれるのは惜しい、私が嫁入りして、立て直したい」と考えて、嫁にきたのじゃった。

嫁入り後、とうとうある日、「売り枴」と「買い枴」の秘密を知った嫁は、なんと、この枴をまったく逆にして、使う事にした。

つまり、仕入れる時は、小さい枴を使って、仕入れ先を儲けさせ、売る時は大きい枴を使って、お客に得をさせるようにしたのじゃ。

すると、

「最近、湊屋さんは、買った品物よりも、余計に支払ってくれる」

「湊屋さんで買うと、品物の量が、多くて得じゃ」

と、良いウワサが、すぐに広がった。

「取引したい」という仕入れ先が、次々と良いものを、安く売りに来る・・・。

店にはお客が、行列を作る・・・。

あっという間に、店は立ち直って、商売繁盛になったという事じゃ。

メデタシ、メデタシ。

昔から、「損して得取れ」と言います。

この昔話に出てくる商屋は、最初、それとまったく逆の事を、やってしまった。

目先のこすい儲けに、目を奪われて、「負のスパイラル」に、入ってしまったのです。

まず、自分たちではなく、お客様を喜ばせる。

そうすれば、「お金は、後からついてくる」のです。

大成功している人は、皆、その事を知っているのです。

タダでご馳走にならない 1075



「あの人はケチだから、タダで食事を、おごってくれない」と、平気で言っていないですか。そんな人は、相手がケチではなく、本当は自分が、ケチなのかもしれません。

**あるプロスポーツの人気チームでは、選手たちに「宴席などで、ご馳走になる事」を、一切禁止しているそうです。
理由は、ひと言で言えば、「借りを作らない」ためです。**

例えば、料亭でタダで、ご馳走になった相手から、「今度、〇〇選手のサインを、もらってくれないか？」と頼まれたら、断りにくい。
他人から安易に、ご馳走になると、あちこちに「借り」ができて、結局は、本人のクビが、締まってしまうから、「ご馳走になるのは、禁止」というわけです。

笑福亭鶴瓶師匠が、銀座の高級クラブで、楽しく飲んでいた時の事です。
何しろ鶴瓶師匠、「見間違えようがない」ほど、特徴的な顔と声の持ち主なのです。
クラブで飲んでいても、とても目立ってしまいます。

すると、当然、「お近づきになりたい人」から、師匠の席に「シャンパンやワインの差し入れ」が、入る事があります。
「あちらの席に、これを」というやつです。

高級クラブのお客ですから、決して怪しげな人たちでは、ありません。
それでも、師匠はいっさい、そうした差し入れは、受けないのだそうです。

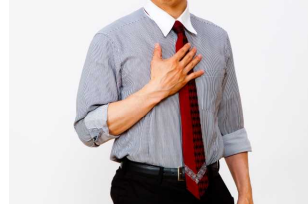
ただ、断るだけでは、ありません。
差し入れを断った後で、ニコニコしながら、その席へ行って、こう言うのです。

「どうもありがとう。でも、ボクは、芸人として、自分のお金で飲む事に、決めているのです」

そして、その席で握手をしたり、サインに応じたりと、サービスをする。
お金に関する事は、キチッとしつつ、相手へのフォローも、怠らない。
一流ですね。

**お金は、たとえ少額でも、「魔物」です。
よく知った先輩が、「今日は、おごりだ！」と、言っているのに、断るのは辛いですが、キツチリしておくことに、越した事はありません。
タダほど、恐いものは、ないのです。**

「自分のせい」で上手くいく 1076



「全員が『悪人』の家」という話をします。

あるところに、「いつもケンカばかりしている一家」と「ぜんぜんケンカをしない一家」が、隣り合って住んでいました。

ケンカばかりしている一家は、それはそれは、つまらない事で、毎日ケンカが絶えません。例えば、床に置いてあった本に、奥さんがつまずき、崩してしまったら・・・。

「ちょっと、誰よ、こんなところに、本を積みっぱなしにして！」

「オレだ！ ああっ、せっかく順番どおりに、積んであったのに、バラバラになってしまったじゃないか！ もう少し注意して、歩かんか！」

「アンタがこんなところに、本を積んでおくのが、いけないんでしょう！」

と、あっという間に、ケンカになる。

そんな、「ケンカ一家」のダンナさん。

「いったい、隣りの家は、どうしてぜんぜんケンカを、しないのだろう・・・」と不思議に思い、ある日、「仲良し一家」のダンナさんに、聞いてみます。

「お宅は、いつもニコニコとして、ぜんぜんケンカを、していないようですが、何か秘訣でもあるのですか？」

すると、「仲良し一家」のダンナさんから、耳を疑う返事が、返ってきたのです。

「ウチは皆、悪い人間ばかりなので、ケンカにならないんですよ」

えっ？ と思う「ケンカ一家」のダンナさん。

今のって、「良い人間ばかり」の言い間違いでは・・・？

不思議に思っていると、「仲良し一家」の家の中から、奥さんの声が聞こえてきます。

「あら、ごめんなさい。せっかく本が床に、積んであったのに、つまずいて崩してしまいました」

それに対して、お姑さんの声。

「私の方が悪かったわ。息子がこんなところに、本を積んでいるから、片付けようと思っていたのに、つい、そのままにしていたのよ」

すると今度は、家の中へ向かって、ダンナさんが叫びます。

「いや～、そんなところに、本を積んでおいて、オレこそ悪かった。ケガは無かったか？ 片付けるから、そのままにしておいてくれ」

この会話を聞いていた「ケンカ一家」のダンナさんは、すべてを理解しました。

「なるほど。仲良し一家では、みんなが『私が悪い、私が悪い』と、言っている。たしかに全員が〈悪い人間〉だ。これは、たしかにケンカに、なるはずがない・・・」

いつも「自分のせいで」と考える人は、上手くいくのです。

責任を相手に求めるのではなく、自分に求めることが、優しさなのです。

分け合うことで幸せ 1077



友だちと一緒に、あるレストランで、食事をしました。
友だちと仲良く、おしゃべりをしながら、注文した数種類の料理を分け合って、食べたところ、とっても料理が、美味しく感じられました。

そこで、後日1人だけで、同じレストランに行き、同じ料理を食べましたが、何故か以前ほど美味しく、感じられませんでした。
このような経験を、したことがある人も、いるのではないのでしょうか。

その少年の夢は、宅配のピザを1人で、全部食べる事でした。

大好きなピザなのに、いつも弟と分けなくてはなりません。
1度でいいから、ピザ1枚を1人で、思い切り食べてみたい・・・。

ある日、少年は両親と弟が、出かけているスキに、お小遣いをはたいて、ピザを注文しました。
夢を実現するために。

**でも、何かが、違っていたのです。
いつもはあんなに美味しいピザが、なぜか美味しくない・・・。**

そこに弟が、帰ってきます。
「あっ、ピザだ」
「うん、お兄ちゃんが、頼んだんだ」
そして、少年は弟に、こう言います。
「いっしょに食べよう」

**2人で食べるピザは、いつもの美味しいピザに、戻りました。
少年は、ピザが美味しい理由を、初めて知ったのです。
世の中には、「シェアする幸せ」というものが、あるのです。**

**人と分け合うことで、強く幸せを、感じるのです。
美味しさと幸せ感が、さらに高まるのです。**



人に惚れられよう 1078



あの人の言うことや頼みごとは、どんなことでも、素直に聞き行動できる。
こんな人は、あの人のことを尊敬し、惚れているのです。

惚れている人がいる人は、とっても幸せな人だ、と思います。
もちろん自分が、他の人から惚れられているなら、さらに幸せなのです。

**ある時、権力絶頂期にあった秀吉が、己の力を見せつけようとして、家康に、自分の財産を披露した事が、あったそうです。
金銀財宝をみせられた家康は、しきりに感心するばかり。**

調子に乗った秀吉は、「家康どのは、どのような財宝を、お持ちかな？」と水を向けます。
すると、家康は、物おじする事なく、こう答えたそうです。

「私は、貧乏な地方の大名ですから、このような財宝を、持っておりませぬ。ですが、私のためなら命を惜しまない旗本が、1万騎ほど、おりまする」

この言葉を聞いた秀吉は、恥じ入ると共に、「家康、あなどり難し」の思いを、強くしたという話です。

人の上に立つ者は、どんな時も、「自分を支えてくれる人たち」の存在を、忘れてはいけません。

いや、人の上に立つ者だけでは、ありません。
人は誰でも、誰かに支えられて、生きています。

「自分を支えてくれる人たち」に、「自分を惚れてもらう」。
もし、本当に「惚れてもらう事」ができれば、これほどの強みは、ありません。
「カリスマ経営者」と呼ばれる人たちも、その多くは、一見、「ものすごくワガママ」なのですが、皆、従業員に「惚れられて」いました。

松下幸之助は、会社で散々に叱り飛ばした、部長の自宅へ電話をかけて、奥さんに、こんな事を言った、というエピソードが、残っています。

「今日、ご主人は、しょげて帰ってくるだろうから、夕飯にお銚子の2、3本でも付けてやって欲しい」
こんな細やかな気づかいが、社員から「惚れられる」のですね。

**あなたは、自分のために、「何でもするよ」と言ってくれる人を、持っていますか？
常に自分を支えてくれる人を、大切にして、優しく態度で、接するようにしましょう。**

長年の思いやりと努力が、あなたを周りから、惚れられる人に、成長させていくのです。

お礼は3度 1079



人から、いいことをしてもらった時に、お礼を言います。
お礼を言うのは、ほとんどの場合は、1度だけです。

しかし、機会あるごとに、何度でもお礼を言うことで、お礼の気持ちが伝わり、心が通い合うように、なることもあります。

銀座のクラブのママであり、企業でマナーや接客のセミナーを、開催する有名人がいます。その人は、お店のスタッフに「お礼は、3度」と、教えています。

例えば、お店の常連客に、食事をご馳走になった時。

1度目は、その場でお礼を言う。

2度目は、その日のうちか、翌日には電話かメールで、お礼を伝える。

そして、3度目。

これがなかなか難しいのですが・・・。

3度目は、「次に会った時」に、お礼を言うのです。

もし、3年ぶりに訪れたお店で、「あら、〇〇さんお久しぶり、3年前は、うなぎをご馳走になって、ありがとうございました」と言われたら、「おっ、すごいな」と、思いますよね。めったに食事を、ご馳走になる機会がなければ、覚えていられても、人気のある子だと、しょっちゅう常連さんに、ご馳走になります。

それをいちいち記憶して、次にそのお客が、来た時の第一声で、お礼を言うのですから、至難のワザです。

だって、うなぎをご馳走してくれた相手に、お寿司のお礼を、言ってしまったら、かえって失礼に、なってしまいますから・・・。

一流のお店は、お客も一流なので、お客の方は「ご馳走した事」を、すっかり忘れていても、お礼を言われれば、悪い気はしない。

高いハードルをクリアして、「次に会った時」に、ちゃんとお礼を、言えるかどうか、お客から、人気が出るか、どうかの分かれ目の1つなのです。

何も客商売だけでなく、世の中全般で、使えるワザです。

いつも形式的に、お礼を1度だけ、言っている人は、大いに見習いましょう。

「お礼は、3度」を、心がけると、相手をいっそう大切に作る気持ちが、高まることでしよう。

そして、相手も、大変喜んでくれるのです。

分け合えば喜びと感謝に 1080



相田みつを（詩人）の有名な詩、「分け合えば」の一部を、紹介します。

うばい合えば にくしみ

分け合えば よろこび

うばい合えば 不満

分け合えば 感謝

うばい合えば 戦争

分け合えば 平和

うばい合えば 地獄

分け合えば 極楽

東日本大震災が発生した時、仙台では、ライフラインは翌日復旧しましたが、本や雑誌の流通は、完全にストップ。

子どもたちが、毎週読むのを、楽しみにしている漫画雑誌も、本屋には届きません。そんなある日。

1人のお客が『少年ジャンプ』を持ってきて、ある本屋さんに、こう言います。

「これ、ボクはもう読んだので、よかったら皆に、読ませてあげてください」

そのお客は、『少年ジャンプ』を読みたくて、山形まで行って、購入したとの事。

本屋の店主は、さっそく、店頭に張り紙をします。

「少年ジャンプ 3/19日発売号 読めます！ 1冊だけあります」

店主は、この『少年ジャンプ』を、立ち読み自由にしました。

そう、「シェア」したのです。

それを見た子どもたちが、次々と店にやってきます。

ウワサはすぐに広がり、翌日には、お店に長い列が・・・。

子どもを連れてきて、「ずっと怖がっていた子どもが、ようやく笑ってくれました」と、涙ぐむ母親もいました。

この1冊の『少年ジャンプ』の話は、小さな新聞記事に、なりました。

すると、この本屋さんに、「この本も置いて、あげて欲しい」と、たくさんの漫画雑誌が、届くようになったのです。

いつしか、店頭には募金箱が、置かれました。

無料で読むのは悪い・・・と、考えた子どもたちが、設置したのです。

店主は、募金箱に入れられたお金を、津波で被害を受けた地域に、本を届けるプロジェクトへ、寄付しました。

数百人の子どもたちに、回し読みされて、ボロボロになった、この『少年ジャンプ』は現在、発行元に、「伝説のジャンプ」として、保管されているそうです。

この『少年ジャンプ』の話は、「シェア」が生んだ、小さな奇跡です。

一人占めは、ツマラナイのです。

分け合えば、皆が喜び、感謝するのです。

相手に合わせて仲良く 1081



人と仲良くなるには、どうしたらいいのでしょうか。
ここでは、人と仲良くなれる、秘訣を紹介します。

「デキる男は、『接待の時に、飲むお酒の種類』に、共通点があります。

ビール、ウイスキー、ワイン、日本酒など、何でも選ぶ事が、できる銀座のクラブ。
もちろん、銀座御用達のドンペリ（高級シャンパン）もあります。
さて、あなたには、「デキる男」が、接待の時に飲む、お酒の種類が、わかりますか？
えっ？

「お客には、ドンペリや高級ワインを、振る舞って、自分は定番のビール」ですって？
いやいや、違います。
接待の時に、「デキる男」が飲む、お酒の種類。
それは・・・。

接待している相手と、同じ種類のお酒。

接待相手が、ビールを飲めば、ビール。
ワインを飲めば、ワインを飲む。
相手が、ビールを頼んでいるのに、「ボクは、バーボンを」なんてやっている、ビジネスマンは、「デキない男」なのですね。
相手より、高いお酒はもちろん、相手より、明らかに安いお酒を、頼むのもNG。

ドンペリを飲んでいる目の前で、ビールを飲まれたら、接待される側も、居心地が悪いです。
たとえ下戸で、相手と同じものが、飲めなくても、ノンアルコールビールを、頼むなどして、一緒に飲んでいる雰囲気を出す方がいいのです。

そもそも、人は、自分と共通点がある相手に、親近感を覚えるものです。
ほら、同郷や出身校が同じ人とは、すぐに打ち解けるでは、ありませんか（＝「類似性の法則」）。

また、人は、自分と似たものを、好ましく思います。
ペットが、飼い主そっくりな事が多いのは、このためです。
「似ている」ところが、人は、自分と同じ仕草をしている人にさえ、好感を覚えます。
だから、初デートでは、相手を取るポーズの真似をするのが、効果的なのですね。（＝「ミラーリング効果」）
接待で、相手と同じ種類のお酒を飲む事は、この「類似性の法則」「ミラーリング効果」からも、正しい選択と言えます。

人と仲良くなるためには、相手に合わせる事が、早道なのです。
相手に合わせる事が、できる人は、柔軟性があり、包容力がある人でもあるのです。
積極的に相手に合わせて、もっともっと、仲良くなりましょう。

「感じない」のが得策 1082



「あの人から、嫌なことを言われた」「友だちが、この頃冷たい態度を取る」「上司から文句を言われた」など、心配したり、不安になったり、傷ついたりします。

さらに、こんなことが続くと、何ごとに対しても敏感になり、ほんの些細なことに対しても、ビクビクしてしまいます。

感受性が強すぎて、多くのマイナスな感情が、湧き起こってきます。

「感じすぎる」のも、困ったものです。

魚には、「痛点（つうてん）」が、ないのだそうです。

釣り針をくわえてしまい、釣り上げられるときも、ぜんぜん痛くない。

それどころか、生け作りの刺身になるときだって、包丁で身体を、切られても痛くない。

身体が軽くなって、「んっ？　なんか変だな？」と、思うだけらしい。

ついでにいうと、魚の記憶力は、2秒なのだそうで、イヤなことがあっても、2秒後には、ケロッとしているのです。

他人の言葉や態度に、「傷つきやすい」「腹が立つ」というあなた。

痛点のない魚に、学びましょう！

カチンとくる言葉や話を聞いたら、「感じない、感じない」と、「鈍感力」を、発動するのです。

そもそも、無神経な人って、あなたが、自分の言葉や態度に、カチンときていることに、まったく気が、ついていません。

だったら、こっちも「感じない」のが、得策です。

「感じない」強い心を、持ちましょう。

世の中には、「感じない」方が、幸せであることも、多いのです。



ただ働きもありがとう 1083



「うわーっ、損したー!」「えーっ、たったこれだけー!」って思うこと、ありませんか？

たとえば、あなたが会社や事務所には、所属していない、フリーのイラストレーターだとします。

そんなあなたに、知り合いから「たしか、イラストのプロだったよね。ちょっとイラストを描いて、もらいたいんだけど」と相談が。

自分はフリーとはいえ、プロのイラストレーターなので、タダではないだろうと、思ったものの、知り合いからの依頼だし、お金の話をするのも野暮（やぼ）なので、そのまま快く引き受けるあなた。

依頼されたイラストは、初めて経験するタイプのもので、それなりの時間をかけて、完成させました。

「まあ、知り合いだし、謝礼はいくらでもいいや」と、気前よく思っていたのですが、知り合いは、「いやー、助かった。ありがとう!」と、言ったきりで、どうやらお金を支払ってくれるつもりは、なかったようです。

さて、こんなとき、あなたは、どう考えますか？

お釈迦様は、こんなことを、言っているそうです。

「世の中には、損も得もない。ただ、『損だ』『得だ』と、こだわる人の心が、あるだけだ」

「ただ働きかよ!」と、思えば損。

「初めてのタイプのイラストを描けて、いい経験になった」と、思えば得。

それだけのことだ、ということです。

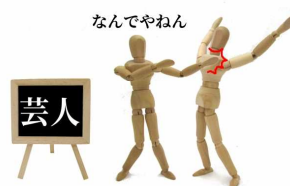
どんな行為も、見返りや報酬を、期待せず、『させていだいて、ありがたい』と、思えば、心穏やかにいられます。

もし、イラストを頼まれたときに、はじめから「知り合いだし、勉強になるから、タダでやってあげよう。私のイラストを評価して、頼んでくれてありがたい」と、考えていれば、「ありがとう」と、言ってもらえるだけで、満足できたはずです。

「見返り」や「報酬」に、いっさい期待しなければ、「心穏やか」に、いられるのです。ただ働きも、ありがとうなのです。



お膳立てに感謝 1084



野球の試合で、3点差で負けている9回の裏に、満塁のチャンスをつかみ、そこで、逆転サヨナラ満塁ホームランを打ったら、打った人は、文句なしのヒーローです。

でも、ここでちょっと、考えてみてください。

もし、同じバッターが、ランナーなしで、ホームランを打ったとしたら、どうでしょう。

ソロホームランで、たった1点入るだけ。

当たり前ですが、ヒーローでもなんでもありません。

やったことは、「ホームランを打った」という、同じことなのに、かたや「ヒーロー」で、かたや「1点取った人」どまり。

この違い。

ひとえに、その人が打席に立つ前に「チームメイトが、チャンスを作ってくれていたかどうか」に、かかっています。

いわゆる、「お膳立て」を、整えてくれていたかどうか、分かれ道になるわけです。

お笑い芸人・・・というより、リアクション芸の神様、出川哲朗さんが、ある番組で、ビートたけしさんから、昔聞いたという、忘れられない言葉を、紹介していました。

たけしさんに連れられて、寿司屋に入ったときのことだそうです。

リアクション芸で、人気だった出川さんに、ビートたけしさんは、こんなことを、言ったのだそうです。

「お笑いっていうのは、フリがあって、フリがあって、オチがある。ウド鈴木や出川やダチョウ倶楽部が、いつも『オイシイところ』を、もらっているけど、その前に、たけし軍団とかが、振って振ってくれているから、最後に大オチで、大爆笑が起きているんだ。だから、『振ってくれている人たち』への感謝は、絶対に忘れちゃいけない」

この言葉について、出川さんは、「一生忘れられない」と、語っていました。

自分の活躍は、「自分がオイシイところを、持っていけるように、お膳立てをしてくれた人たち」のおかげ。

たとえ、逆転サヨナラホームランを打っても、その自分に、酔いしれるだけではダメ。

その前に出塁して、ランナーになってくれた人たちが、いてこそその逆転ホームランだということを、忘れてはいけません。

その感謝の気持ちを忘れると、いい気になって、思い上がってしまい、後で必ず痛い目を見ることになりますので、ご用心、ご用心。

お膳立てに、常に感謝なのです。

お膳立てがあつてこそ、自分が活きるのです。

なんとかしましょう 1085



ミステリーで、はじめから犯人が、わかっているタイプのものを「倒叙（とうじょ）モノ」と言います。

『刑事コロンボ』は、はじめから犯人が、わかっている話でした。

三谷幸喜が、脚本を書いた人気ドラマ、「古畑任三郎シリーズ」は、三谷と番組プロデューサーが「日本で刑事コロンボをやりたい」と考えて、企画した作品です。
独特のしゃべり方で、犯人を追いつめていく、スタイリッシュな古畑役の田村正和が、見事にハマって、高視聴率の人気番組になりました。

さてこれは、そんな人気ドラマの裏話。

ある時の事、まだ完成していない「台本」が誤って、田村正和へ渡ってしまった事がありました。

三谷幸喜は、スタッフを通じて「まだ、矛盾点がたくさんあるから、セリフは覚えなくて」と、田村正和に伝えようとしたのですが、時すでに遅し。

田村正和は、自分のセリフを、全部頭に入れてしまったあとだったのです。

今さら、「台本を差し替えます」とは、言いづらい状況。
ピンチ到来です。

**完成する前の台本のセリフを、田村正和に全部覚えられてしまった三谷幸喜。
このあとといったい、どうしたでしょう？**

古畑のセリフは、すべてそのまま、他の人物のセリフだけを変えて、物語のつじつまを合わせた。

まるで、パズルです。

三谷幸喜は、こう言っています。

「実はそういうのが、ボクは楽しいんですよ。無理難題が降りかかった時に、他の作家なら『無理です！』と言うところを『わかりました、なんとかしましょう』と。何でも受け入れながらも、いいものを創る、自分はそういうふう、に、ありたいと思っている」

**「制限のある中で、ベストの仕事をするのがプロ」なのです。
どんな時も、「なんとかしましょう」と、意欲を高めるのです。**



人見知りは才能 1086



ずっと気に病んでいた悩みが、人から言われたひと言で、パッと消え去る事があります。それを言ってくれた相手が、尊敬する人物だったり、大好きな相手だったりすれば、その「ひと言」の効果は絶大です。

お笑いコンビ「南海キャンディーズ」の「山ちゃん」こと、山里亮太さん。相方の「しずちゃん」こと山崎静代さんが、個性派女優としてドラマや映画に出演し、ちょっと差をつけられた感がありましたが、最近は、番組のナレーションなど、「声」で、いい仕事をしています。

実は、この山ちゃん。

「人見知り」で、それが大きな悩みだったのだそうです。

その山ちゃんを救ったのは、芸能界の大先輩、タモリのひと言でした。人見知りで悩んでいた、山ちゃんを救った、タモリが彼に言ったひと言とは、どんな言葉だったでしょう？

「人見知りは、才能」

タモリは、やまちゃんに、こう語ったのです。

「タレントとして、テレビで成功するには、面白いだけではダメで、その場がどういう状況なのかを、感知する能力が必要。『その場の状況や流れ』を感知できず、どこでも同じノリで、やってしまうヤツは、生き残れない。

そもそも『人見知り』とは、他人の言動や反応をよく観察し、思いを巡らしてしまうあまり、『こんな事を言ったら、嫌がられるのではないか』と、相手のリアクションを想像してしまっ、相手としゃべれなくなってしまう人の事。

この『相手のリアクションに、思いが及ぶ事』こそが、『神様から与えられた、素晴らしい才能』である。

もし、『こんな事を言ったら、嫌がられるんじゃないか』がわかるなら、逆に『これを言ったら、喜ばれるんじゃないか』も、想像できるはず。

だから、『人見知り』は、欠点どころか、タレントとして生きていく上で、最高の武器になる」

すごい説得力ですね。

この言葉を聞いた時、山ちゃん目からウロコが、100枚くらい落ちるのが、目に浮かびます。

ある番組の中でも、タモリさんは、「芸能界で戦っていく人は、人見知りしか、成功しない」と、言っているのです。

悩みでも、見方を変えれば、強みにもなるのです。

ピンチを楽しみ、飛躍しよう 1087



プロスポーツ選手のメンタルカウンセラーの権威である、スポーツ心理学者・児玉光雄教授は、こう言っています。

「ピンチを楽しめるようになったら、一人前」

プレッシャーに弱い、プロゴルファーのメンタルカウンセラーとして、「ピンチになったら、笑顔を作り、『ピンチを見事に脱出することは、楽しい』と、心の中でつぶやいてから、スイングを開始しなさい」と、アドバイスしているそうです。

本来、ゴルフは困難を楽しむスポーツ。

「もし、ゴルフのコースにバンカーがなかったら、本当にツマラナイだろう」という言葉を聞いたことがあります。

児玉教授は、さらに「(スポーツにおいては)『成功をしている良いイメージを描けば、必ず夢はかなう』という発想より、むしろ『悪いイメージが、浮かび上がったとき、それを打ち消そうとするのではなく、それを受け入れて楽しむ』くらいの気持ちの方が、よい結果につながる」

つまり、「最悪の事態を想像し、そんな状況なのに、余裕たっぷりで問題を解決している、自分を思い描きなさい」という事です。

ここで、イチローのエピソードを紹介します。

高校に入った当時は、ピッチャーだったイチローが、「バッターに専念するきっかけ」になったのは、「交通事故」だったのだそうです。

高校2年の春に、自転車に乗っていて、ライトバンに追突されてしまったイチロー。この事故で一時的に、速い球を投げられなくなり、監督によって外野手に、転向させられたのです。

イチローは、「交通事故さえなければ、きっとピッチャーを目指していた」と語っていて、「打者として、プロを目指すきっかけを作ってくれたのは、この交通事故なんですね」と、事故に対して、感謝の言葉を残しています。

イチローは、「交通事故」というピンチさえも、飛躍のきっかけに、変えてしまったのです。ピンチを楽しみ、チャンスに変え、大きく飛躍できるのです。



願いはすべて聞いてもらえる 1088



初詣や旅行などで、お寺や神社へ行ったとき。
あなたは、神様に何を、願いますか。
神様に手を合わせる時って、自分が本当に望んでいることと、素直に向き合ういい機会です。
そんな「神様へのお願い」について、とても感動的な詩を、紹介します。

『神様のおもんばかり』

大きなことを成し遂げるために
力を与えて欲しいと神に求めたのに
謙虚さを学ぶようにと弱さを授かった

より偉大なことができるようにと
健康を求めたのに
よりよきことができるようにと病弱を与えられた

幸せになろうとして
富を求めたのに
賢明であるようにと貧困を授かった

世の人々の賞賛を得ようとして
成功を求めたのに
得意にならないようにと失敗を授かった

人生を楽しもうと
たくさんのものを求めたのに
むしろ人生を味わうようにとシンプルな生活を与えられた

求めたものは何一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞き届けられていた

私はあらゆる人の中で
もっとも豊かに祝福されていたのだ

いかがですか？

まったく同じ人生を歩んでいても、「貧乏で、不健康で、成功することもなかった。私の人生は最悪だった」と言う人と、「普通の暮らしができて、大病もせず、夢を追いかけて過ごすことができた。私の人生は幸せだった」と言う人がいます。

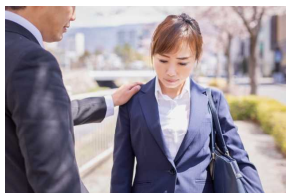
幸せかどうかを決めるのは、結局、自分なのです。

あなたの中にいる、神様が決めているのです。

神様は、あなたの味方なのです。

そして、願いはすべて、聞いてもらえているのです。

失敗をさらけ出そう 1089



想像もしていなかったような、「とんでもない大失敗」をした経験。

あなたにも、何度かは心当たりがあると思います。

どうしたら解決できるか、まったくわからないほどの大失敗の時は、途方に暮れてしまいます。

そんな時は、いったいどうすれば、いいのでしょうか。

ある大学の生協で、アルバイトの職員が「ポッキー」や「プリッツ」などのお菓子を320個仕入れようとして、3200個も発注してしまったのです。

「1セット10個入り」という表示を見逃したために、起こってしまったミスですが、届いた商品の山を見て、青ざめたのは、生協職員たち。

さあ、もしあなたが職員だったら、いったいどうしますか。

困り果てた職員たちが、選択した方法。

それは「失敗をさらけ出し、本気でお願いする」ことでした。

自分たちのミスによって、とんでもない数のお菓子が、届いてしまったことを、正直に学生たちに伝えて「何とか、買って下さい！」と、「本気でお願い」したのです。

職員たちは、食品売り場だけでなく、食堂や書店など、大学内のあらゆる場所に、商品を置き、そのすぐ横に大きなPOPで、こう書きました。

「HELP！ 誤ってポッキー・プリッツが3200個届いてしまいました。思っていた数のなんと10倍です。皆さんの声かけをたくさんの人に、よろしくお願いします」

さらに、このPOPの下には、日々の販売個数を表示して、「夢の完売まで、あと何個」というカウントダウンの数字が、わかるようにしました。

そうしたら、学生たちが面白がって、ツイッターやLINEで「〇〇大学生協ポッキーだらけ！」などと写真付きで拡散。

「買ったよ」「私も！」と、どんどん盛り上がり、通常の100倍ものケースで売れて、無事に完売することができたのです。

これ、もし職員たちが誤発注を隠して、ただ単に「ポッキー、プリッツ大安売り！」なんてフェアをやったとしても、上手くいかなかったでしょう。

「間違えて、10倍もの数のポッキーを発注してしまった」というとんでもない失敗。それを隠さずにオープンにし、「助けて下さい」と本気でお願いしたことが、多くの学生の心を動かしたのです。

人は、真剣にお願いされると弱いもの、たとえ店舗の担当者からのお願いでも、真剣なお願いなら、一度くらいは聞いてあげようとするものです。

そもそも、人助けって、助けている側も、ちょっとイイ気分になれますものね。

ピンチの時は、隠さないほうがいい。

さらけ出したほうが、上手くいく。

これは、何も「ミス」だけに、限った話ではありません。

自分の欠点や、苦手なこと、恥ずかしいところだって、ときには隠さずに、さらけ出してしまっ、いいんです。

そんな素直さを持つあなたに、周りの人も手を、差し伸べてくれるのです。

危険を事前に察知しよう 1090



塚原ト伝（つかはらぼくでん）という剣豪を、ご存じでしょうか。

囲炉裏（いろり）の前で食事をしている時に、背後から斬りかかられて、とっさに鍋のフタを楯がわりにした・・・というエピソードで有名な人です。

生涯に19回も真剣勝負（＝本物の日本刀での命がけの勝負）をして、1度も負けなかったというのですから、強かったことは確かなようです。

さて、このト伝さんが、3人の息子のうち、誰を自分の剣術の後継者にするかを、決めるためのテストをした、という話が残っています。

テストの方法は、「座敷の入口に、中に入ろうとすると頭に鞠（まり）が落ちるような仕掛けをして、どんな対処をするかを見る」というものでした。

まず、長男。

彼は、座敷に入る前に仕掛けに気がつき、その鞠を外してから、中に入りました。

次の次男。

彼は、座敷に入ろうとした瞬間、何かが頭に落ちてくることを感じて、刀に手をかけましたが、それが鞠だと気がつくと、そのまま座敷に入りました。

最後の三男。

彼は、頭に落ちてきた鞠を、とっさに抜いた刀で、ものの見事に真っ二つに斬ってから、座敷の中に、入りました。

さあ、この3人の息子のうち、剣豪・塚原ト伝が後継者に選んだのは、誰だと思いますか？
ちょっと考えると、落ちてきた鞠をとっさに斬った三男が、1番すごいように思えますよね。

でも、ト伝さんが後継者に選んだのは、長男でした。

理由は「危機を事前に察知する能力に、秀でているから」。

ト伝さんは、次男はある程度評価したものの、鞠を真っ二つに斬った三男に対しては、「未熟！」と断じたそうです。

「それくらいの危機を察知できないとは、修行が足りない！」というわけです。

中国の兵法書『孫子』の中にも、最高の勝ち方は「戦わずして勝つこと」とあります。
現代社会においても、「危機に陥ったときに、うまく処理できる人」よりも、「リスク管理がしっかりできていて、そもそも危機を回避できる人」のほうが、すぐれていることは、言うまでもないでしょう。

天下無敵の剣豪は、リスク管理という点でも、すぐれていたからこそ「無敵」を維持できたのかもしれませんが。

危機を事前に察知する能力は、安心・安全を確保してくれる素晴らしい能力なのです。

捨てるものはない 1091



島田洋七（しまだようしち 漫才コンビで活躍）が、子どもの頃にいっしょに過ごした、おばあちゃん（佐賀のがばいばあちゃん）の思い出話です。

家の前の川を「スーパーマーケット」として、活用していたばあちゃん。木の枝や野菜、果物のみならず、古くなった下駄や着物、ブリキの玩具、空き箱や空き瓶、誰が捨てるのか、流れてくるものは、何でも拾って再利用していた。

はじめは、捨てられたものを拾うことに抵抗があったし、友だちや近所の人に見られるのも恥ずかしかった。

でも、どんなものでも、それがばあちゃんの手で見事に、再利用されるさまを見ているうちに、だんだん面白くなってくる。

**「拾うものはあっても、捨てるものはない」
ばあちゃんの言っていることは、ホントだと思うようになった。**

ばあちゃんの「何でも再利用」は、これだけじゃない。出かけるときは必ず、長い紐の先に磁石をくくりつけ、それを腰に巻きつけて歩くのだ。そうすると、釘や鉄くずが磁石にくっついてくる。バケツ一杯くらいはすぐにたまり、それを売ると割合にお金になった。

ある日のこと、俺とばあちゃんは、どこかに出かけようと、バスを待っていた。もちろん、ばあちゃんは、その日も磁石つきの紐を、腰に巻きつけている。バスが来て俺が先に乗り込んだが、ばあちゃんが、なかなか乗ってこない。「ばあちゃん、どうしたの？」

振り返ってみると、ばあちゃんは、うんうん唸りながら、腰につけた紐を引っ張っている。「大物だ、手伝え！」

「あの・・・」
そのとき、バスの運転手さんが、俺たちに声をかけた。「磁石が、車体にくっついていてるみたいなんですけど・・・すみません、バスは持って帰らないでください」

ばあちゃんが、引っ張り上げようとした「大物」は、なんと「バス」だったのだ！さすがの俺も、顔から火が出るほど、恥ずかしかった。

**ばあちゃんにとって、世の中に、捨てるものは、何一つないのです。
必死になって、どんなものでも、大切にしているのです。**

**今の世の中は、悲しいことに、何でも気軽に捨ててしまう時代です。
しかし、ばあちゃんのように、全てのものを大事にする心が、とても大切なのでは、ないでしょうか。**

花で人に幸せを 1092



これは、ある花屋の女性の話です。

実は彼女は、子どもの頃、体が弱くて入退院を繰り返す日々を送っていました。
そんな彼女をなぐさめてくれたのが、病室に飾られた花だったのです。

「花は、人をなぐさめて勇気を与える。私は大人になったら、花屋さんになって、たくさんの人たちを勇気づけたい」

病室で自分の心を癒してくれる花を見て、彼女はそう決心しました。

やがて、フラワーデザイナーとなり、東京で起業します。

仕事は、企業のイベントやウエディングでの会場装花。

しかし、会社を維持するのは、簡単ではありませんでした。

スタッフを抱え、日々の仕事に忙殺されます。

そんな時、あの東日本大震災が、発生したのです。

彼女の会社の生命線である、企業のイベントやお祝い行事は、軒並み「自粛」により中止になりました。

入っていた仕事は、すべてキャンセル。

その後も、まったく注文がない日々が続きます。

途方にくれた彼女は、とうとう会社をたたむ決心をします。

花屋をやめる決心をした彼女は「どうせもう売れない花なら・・・」と、1000本のヒマワリを持って、東北へ向かいました。

被災した人たちへ、ひとりに1本ずつ、ヒマワリを渡して、少しでも元気になってもらおうと、思い立ったのです。

被災地でヒマワリを配ろうとすると、あっという間に、行列ができたそうです。

そのひとりひとりに、ヒマワリを渡す彼女。

彼女からヒマワリを受け取った人たちからは、こんな声が・・・。

「ありがとう、生の花を久しぶりに見た気がするよ」

「ありがとう、花を眺めて暮らすと、元気が出るわ」

「ありがとう」

「ありがとう」

「ありがとう」

被災者の人たちの感謝の言葉を聞いて、彼女は思い出しました。

私も子どもの頃、病室で花によって生きる希望を、持つことができたんだっけ・・・。

「そうだ。花を通して、ひとりでも多くの人に、幸せになってもらいたい！ そう思って花屋になったのに、忙しくて、いつの間にかそれを忘れていた！」

東京に戻った彼女は初心に戻り、「花で人に幸せを届ける」をコンセプトに、新たな事業をスタートさせました。

彼女は現在、「人と人を結ぶお花屋さん」の代表として、多忙な日々を送っています。

一時、花屋をあきらめかけた彼女を救ったのは、「花を受け取る人たち」の笑顔だったのです。

花には、人を笑顔・幸せにする、大きな力があるのです。

すぐに成果を求めない 1093



お釈迦様にまつわるエピソードを、紹介しましょう。

あるとき、弟子の1人がお釈迦様に、こんな質問をしたことがありました。
「志を遂げるために、1番大切なことは、何でしょう？」

すると、お釈迦様は、大きな花を指しながら、次のように答えました。

「あそこにある花は、この春、種をまいたものだ。
それから、しばらくして、芽が出てきた。
もし、芽のうちに、引っっこ抜いてしまったら、どうなるか。
花は絶対に、咲くことはない。
志というものは、花と同じで、成就するまでに、ある程度の時間がかかるものなのだ」

お釈迦様は、願望の達成には、時間が必要であって、「こうなりたい」「ああしたい」と焦っても、一朝一夕というわけにはいかないと、弟子に伝えようとしたのです。
機が熟すのを、待つくらいの気持ちでいることが重要です。

願望は、花のようなもので、芽の段階では、花が咲きません。
季節を待つことが、大切なのです。

「頑張って行動しているのに、少しも状況が好転しない」と、そこで願望の芽を、引っっこ抜いてはならないのです。

「これからどんどん成長していき、じきに大輪の花を、咲かせてくれる」と、あくまで期待し、前向きな気持ちで、いるようにしましょう。

すぐに成果を、求めないことです。
努力した分だけ、後になって成果は、必ず現れるのです。



お金を有意義に使おう 1094



インドに、次のような昔話があります。

ある村にAさんとBさんという、2人の金持ちがいました。
Aさんは村人たちに、いつもお酒やご馳走を振る舞っていたので、みんなから慕われていました。
しかし、Bさんはそんなことは、あまりしませんでした。
そのため、村人たちから「お金があるくせにケチだ」と、陰口を叩かれていました。

あるとき、村に大雨が降り、洪水が起きました。
このとき2人の行動は、実に対照的でした。

Aさんは全財産を持って、別の国へ逃亡してしまいました。
それに対して、Bさんは村にとどまり、堤防を築くお金を、拠出したのです。

そうです。
Bさんは、ケチではなかったのです。
ここぞというときには、お金の出し惜しみをしない、倏約家だったのです。
言い換えると、お金の「使い方」が、Aさんとは違っていたのです。

Bさんのおかげで、村は洪水の被害が減り、村人は安心して、暮らせるようになりました。
その後、Bさんの評判は一変し、村人から感謝され、尊敬されるようになったというのです。

お金は、使う人の考え方によって、有意義にもなれば、その逆にもなります。
使う人の人格によって、その価値が決まってしまうのです。

人は、お金の使い方を、いつも見られているのです。
ぜひ、いざという時に、人のために使いたいものです。



誰かが見ている 1095



西洋に、こんな民話があります。

ある貧乏な男が、近所の麦畑から麦を盗もうと考え、真夜中に末の娘と共に、他人の畑にやってきた。

そして、「誰か見ている人がいたら、教えるんだ」と、幼い娘に見張り番をさせて、自分は畑に入って、麦を刈りはじめた。

しばらくすると、娘が突然言います。

「お父さん！ 誰かが見ている！」

ギョッとして、父親はあたりを見まわしますが、人っ子ひとりいません。

麦刈りを、再開する父親。

ところがしばらくすると、また娘が言います。

「お父さん！ 誰かが見ている！」

父親は麦刈りを中断して、再びあたりを見まわしますが、やっぱり誰もいません。

「いったい、誰に見られているって言うんだ！ 誰もいないじゃないか！」

父親が怒ってそう言うと、娘はこう答えたのです。

「お空の上から、誰かが見ているの！」

「天網恢々疎（てんもうかいかいそ）」という、中国のことわざがあります。

これは、「天は、どんな小さいな悪も見逃さず、天罰を与える」という意味です。

「神様は、お見通しだぞ」ってことです。

中国には他にも、「これは2人だけの秘密だ・・・と言って、不正を働いても、必ずバレる」という意味で、「天知る、地知る、我知る、人知る」という言葉があります。

神様が見ているのは、何も悪事だけではありません。

あなたが「イイこと」をした時も、ちゃんと見てくれています。

必ず誰かが、見ているのです。

誰にも恥じない、生き方をしましょう。

全員最優秀賞 1096



かつて芸術家の岡本太郎は、子どもの絵の審査員を頼まれた際に、最後に壇上に上がって最優秀者の発表をする時に、こう言ったそうです。

「全員、最優秀賞です！」

「えっ？ 全員ですか？」と、あわてる主催者たち。

「そう、全員すばらしい！ 全員に賞をあげてください！」

なかなか痛快な話です。

そもそも岡本センセイ、「子どもこそ真の芸術家」と考えている人でしたから、子どもの絵に順位を付けるなどという愚行は、するわけがないのです。

センセイは、3歳くらいまでは、心のままに絵を描いていた子どもたちが、まわりの大人たちの目にさらされて、「うまい」とか「ヘタ」とか言われるうちに、絵を描くのをやめてしまうことについても、激しく批判しています。

ここで、子どもの絵に関する「紙の金メダル」のお話をします。

美術教師をしている小林（仮名）が、ある時、小学校に代理教員として、絵を教えに行った時の話です。

授業では、児童たちに、校庭にある大きな木の写生を、させていました。すると。

ひとりの児童が、木の幹を紫色に、塗っているではありませんか。

驚いた小林さんは、その子に話しかけます。

「よくあの木を見て？ こういう色じゃないんじゃないかな？」

するとその子は、こう答えたのです。

「いいんだ！ 僕は紫が1番好きな色なんだ。僕はこの木が、1番好きな木だ。だから、1番好きな色を、1番好きな木にあげたんだ！」

この言葉を聞いた小林さんは「やられた！ 子どもに教えられた！」と思います。

しかし、今の教育では、木を紫に塗った子に「最高点」をあげることはできません。

考えた小林さんは、自分で紙の金メダルを作って、その子にあげたのです。

「学校の都合で、5点の評価はあげられないけど、先生はこの絵は、とても素晴らしいと思う。だから、特別にこの金メダルをあげます！」

そんな出来事から、何年も経ってからのこと。

小林さんは、ふと思い立って、この出来事をラジオ番組に、投稿します。

ハガキは採用され、放送。

すると、驚いたことに、たまたまその放送を聴いていた、あの時の児童本人（すでに大学生になっていました）から、小林先生のもとに、手紙が届いたのです。

その手紙には、こんなことが、書かれていました。

「あの時、先生からもらった金メダルは、今も大切に持っています」

手紙には、大学生になった彼が、あの金メダルを首から下げた写真が、同封されていました。さらに、手紙の続きには、こうあったのです。

「僕は今、絵の勉強をしています。将来は画家になりたい、と思っています」

木の幹を紫色に染めた子。

その子の絵を、認めてあげた先生。

岡本太郎の考えが、正しいのがよくわかります。

全員が、最優秀賞なのです。素晴らしい感性を、持っているのです。

乾杯の数だけ幸せに 1097



西洋の古いことわざのクイズです。
〇〇の中に入る、漢字2文字の言葉は、何でしょう。

「人は、〇〇の数だけ、幸せになれる」

- ヒント1 きっと、あなたは、今までの人生で、何度もやっていることです。
ヒント2 ひとりでは、できません。
ヒント3 誰かと楽しく、会っている時や、小さな「お祝い事」があった時に、これをします。
ヒント4 居酒屋では、たくさんの人たちが、これをやっています。

**もう、おわかりですね。
答えは「乾杯」。**

ある時は、友との再会を喜び。
ある時は、愛する人という幸せを演出し。
ある時は、仲間と喜びを、分かち合う。

こんなすばらしいこと、他にはなかなかありません。
言い方は違っても、「乾杯」という文化が、世界中にある理由が、わかりますね。

**「乾杯」には、他人同士を「仲間」にしてしまう、不思議な力がある。
そして、「人の幸せ」は、すべて「人」が、運んできてくれるもの。**

**この「人は、乾杯の数だけ、幸せになれる」という言葉。
実に理にかなった、言葉なのです。
あなたの隣人と、人生に乾杯！**



達成した目標を楽しもう 1098



東南アジアに、次のような昔話があります。

ある沼で暮らす1匹のカメが、神様に「ウサギのように、早く走りたい」とお願いしました。

神様は、カメの姿をウサギに、変えてくれました。

ウサギになったカメは、間もなくして「トラのように、強くなりたい」と再びお願いしました。

神様は、その願いも叶えてくれました。

ところが、トラに変身できても、カメは飽き足らなくなり、今度は「鳥のように、空を飛ぶたい」とお願いしたのです。

しかし、神様は「わがままな奴だ」とお怒りになって、カメを元の姿に、戻してしまったのです。

この話は、「欲望は、キリがない。1つの望みを叶えることができても、すぐに飽き足らなくなる」という観点から、多くを望むことの愚かさを、教え示しています。

1つの願望を叶えたら、ワンランク上の願望を目指すことは、決して悪いことではありません。

しかし、まずは1つの願望が、叶ったことに感謝することです。

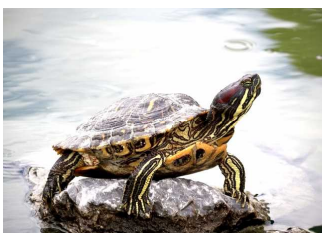
そして、そうなれた喜びにひたり、その境遇を存分に、楽しむことです。

この物語に登場するカメでいえば、ウサギになれたことに感謝し、「早く走れる生活」を満喫するのです。

そうすれば、感謝と喜びの念が、心の中に満ちあふれるようになります。

心が、明るく豊かになります。

次の願望を目指すのは、それからでも遅くはないのです。



災いが絶好の機会に 1099



お釈迦様にまつわる、こんなエピソードがあります。

あるとき、1人の男がお釈迦様に、こんな相談を持ちかけてきました。
「私は20年以上も、奉公先で働いてきましたが、先日、奉公先をクビになってしまいました。この先、どうすれば、いいのでしょうか」

すると、お釈迦様は民家の軒先に吊してある鳥籠（とりかご）を指しながら、次のように言いました。

「あの鳥籠の中にいる鳥は、いつも飼い主から、エサを恵んでもらえるから、食べるには困らない。

でも、もし、あの鳥が鳥籠から出ることができたら、エサには不自由するかもしれないが、新たな天地に向けて、飛び立つことができる。

今のあなたは、自分という鳥が、鳥籠から出て、新天地に向けて飛び立ったところだ。そう思えばいい」

私たちも同じです。

もし、リストラに遭い、職を失ったとしたら、それは脱サラ・独立を果たす、絶好の機会を得た、可能性があるのです。

やりたかった仕事、すなわち天職を通して、世の中に貢献するチャンスかもしれないのです。

ですから、「世の中には、福も災いもない」と言い聞かせ、希望に満ちた明るい未来のみを思い描くことが、大切になってきます。

そうすれば、人生は、徐々に、自分の思い描いた通りに、展開するようになります。

災いが、絶好の機会になるのです。



幸福は身近に存在する 1100



**2010年に、南米チリの鉱山で、落盤事故が起きました。
33人もの作業員が、地下700メートルの避難所に、閉じ込められたのです。
69日ぶりに全員が、無事救出されたとき、世界中は歓喜にわきました。**

作業員たちが、救出された直後、テレビ局のレポーターが「今、1番したいことは、何ですか」と質問したところ、彼らの多くは、次のように答えました。

「家族といっしょに、食事がしたい」「最愛の家族と、ゆっくりと過ごしたい」「家に帰って、シャワーを浴びたい」などなのです。

いずれも、無事に戻れたという幸福を、しみじみ体感するために、望んだことでした。そして、言うまでもなく、これらは日ごろ、私たちがいつも体験していることでもあります。

**私たちは、本来幸せなのです。
ただ、そのことを忘れているだけで、気づこうとしないだけなのです。**

ですから、それを知るためには、もし、自分がチリの落盤事故に遭った、作業員たちと同じような状況に立たされたとき、1番に何を望むかを、考えてみることです。きっと、同じように、「家族といっしょに、御飯が食べたい」「熱いお風呂に、つかりたい」といったコメントを、口にすると思います。

**幸福は、遠いどこかにあるのではなく、身近に存在するのです。
意識するしないにかかわらず、私たちは、その恵みの中で、生きているのです。**

**いつもこのことを、気にとめておくと、いつも幸せを、感じる事ができるのです。
幸福は、あなたの身近に、存在するのです。**



